

駆け込み需要？

このたび、私の事務所は10月末に移転しました。事務所移転は何かと手続きが大変で、ドタバタの1か月が過ぎようやく落ち着きつつあります。移転の案内状を送付させていただいた方には申し訳ないのですが、天王寺区悲田院町の「悲」と書くべきところ、「非」と間違えて記載してしまいました。「心」が抜けて「心」がこもってなかった訳ではないのですが、この場をお借りしてお詫びと訂正をさせていただきたいと思っております。

ところで「悲田院(ひでんいん)」という地名はあまり響きがよくないので由来を調べました。悲田院は仏教の慈悲の思想に基づき貧しい人や孤児を救うために作られた施設のことです。聖徳太子が隋にならい大阪の四天王寺に建てられたのですが、その施設がこの地にあったことに由来するそうで、歴史と伝統のある重みのある地名であることが判明しました。天王寺という地名も四天王寺が所在するところに由来するのですが、現在は近代的な日本一高いビル「ハルカス」がそびえ立っていて、全国的にも古代と近代が融合する注目される地区となっています。

さて、今年も残すところ1か月を切りましたが、この時期になると来年度の税制改正についての報道がされるようになります。いよいよ来年の4月から消費税の税率が5%から8%にアップされますので、消費税についての話題について触れたいと思っております。

増税前の「駆け込み需要」ということが良く言われ、年明けから3月にかけてさらに活発になってくると思います。ところで、駆け込み需要は最終消費者に存在するのは理解できますが、企業ではどうなのか？先日の日経新聞でも「設備投資で駆け込み」という記事を目にしました。消費税の納税義務者である法人や個人事業者（免税事業者及び簡易課税適用事業者は除く、以下「事業者」といいます）は消費税の増税前と増税後では理論上は実質的な負担は変わりません。

例えば、税抜8,000円で仕入れた商品を税抜10,000円で売上げたとします。売上の10,000円には現行5%の消費税では500円が上乗せされ、これを売上の相手先であるお客様から預るのですが、一方税抜8,000円で仕入れた商品には5%の400円の消費税が上乗せされ、これを仕入れ先に預けることとなります。この事業者は預かった500円の消費税から預けた400円の消費税を差引控除した100円を税務署に納める仕組みになっています。

上記商品の仕入れが来年3月以前と4月以後では仕入れ先に預ける消費税額は異なります。来年3月までの仕入れですと5%の消費税込8,400円を仕入れ先に支払い、来年4月以後だと8%の消費税込8,640円を仕入れ先に払うこととなります。それなら3月までに買った方が240円得になると考えても不思議ではありません。これが「駆け込み」の根拠なのですが、事業者の場合は税務署に消費税を納める際に増えた240円を控除される、つまり少なく納めることになるので、実質的な負担はないこととなります。増税後税抜10,000円の売上でお客様から預かった8%の消費税800円から、仕入金税抜8,000円の商品を、来年3月までに仕入れた場合は400円を控除し、来年4月以後仕入れた場合は640円を控除する。税務署に納めるのは各々400円と160円。来年4月以後は仕入れ先には240円多く払いますが、税務署に納める消費税は240円少なく納めるので、実質的な負担は変わらないということとなります。ここが一部誤解されているところですので、事業者の方はくれぐれもご留意いただきたく存じます。

あと消費税について与党内で大きく議論されているのは、税率が10%に上がる際に食料品などの生活必需品について税率を低く抑える「軽減税率」についてです。私たち実務家から言わせてもらおうと今の日本の消費税の仕組みでは「軽減税率」は事務が非常に煩雑で企業に多大な負担をかけることになるので正直大変面倒です。例えば、スーパーで必要経費を購入した場合、レシートに記載された異なる税率の商品毎にデータ入力する必要がありますので・・・。

消費税の簡易課税制度についても見直しが検討されています。基準期間の課税売上高が500万円以下の小規模事業者が適用できる簡易課税制度は消費税申告件数の内4割強が適用しています。この制度は業種によって5段階のみなし仕入れ率50%~90%を控除するのですが、実際の仕入れに係る割合よりものみなし仕入れ率が高いと「益税」と言って本来税務署に納めるべき消費税が事業者の手元に残ることになるので「隠れた補助金」とも言われ、税率が上がることで益税も拡大されることから見直しされるようです。今回見直しの対象になるのが益税が多いとされる保険代理店などの金融保険業や不動産業などです。今のところ各々10%仕入れ率を下げることが検討されているようです。消費税増税に向けた地ならしが着々と進んでいます。

今年も1年お世話になりました。来年もご愛読よろしくお願い申し上げます。